

第5回循環資源利用促進税事業検証懇話会開催概要

- 1 開催日時
平成28年10月18日（火） 13時30分から15時00分まで
- 2 開催場所
北海道立道民活動センター（かでる2・7） 550会議室
（札幌市中央区北2条西7丁目）

- 3 出席者
（1）懇話会委員（敬称略、50音順）

所 属	職	氏 名	出 欠
北海道農業協同組合中央会	農業振興部長	浅野 正昭	出席
北海道大学大学院工学研究院	准教授	石井 一英	出席
北海道漁業協同組合連合会	環境部長	井下 泰浩	出席
北海道経済連合会	理事 事務局長	菅原 光宏	出席
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 工業試験場	材料技術部長	高橋 徹	欠席
公益社団法人 北海道産業廃棄物協会	副会長	寺嶋 忠雄	出席
北海道中小企業団体中央会	連携支援部長	馬込 毅	出席
一般社団法人 北海道食品産業協議会	専務理事	矢倉 武志	欠席

（2）事務局

所 属	職	氏 名
北海道環境生活部	環境局長	湯谷 仁康
// 環境局循環型社会推進課	課 長	田畑 寿幸
//	主 幹	木村 尚司
//	主 査	早田 武志
//	主 任	堀 英樹

4 開催概要

○局長より挨拶

- ・委員の皆様のごこれまでのご意見等を踏まえた報告書の素案について、この会議にて検討いただき、11月下旬の委員会において報告予定である。
- ・委員の皆様にはこれまでのご尽力に感謝するとともに、本日も様々なご意見を願います。

(1) 第4回懇話会の指摘事項について

○資料1に基づき、事務局より説明。

○質問

- ・⑤について、税事業の効果の実績値と目標値が乖離している具体的な理由は何か。
(石井座長)
→事業開始翌年度は、原料の集まりが悪いことや、新たな販路拡大が難しいなどの理由により、1、2年は少なく5年目頃から目標に近づく傾向にある。
- ・⑩について、統計値と税収に乖離があることの理由は何か。(石井座長)
→データの違いの理由としては、廃棄物処理状況調査の調査対象期間は4～3月、税収における換算期間は3月～2月としていることから1か月のズレがあること。また、廃棄物処理状況調査の結果は、推計値であり、税収の数字とは違いが生じるがどちらも正しいデータと考えている。循環型社会形成推進基本計画に示された目標値が処理状況調査のデータを基に算出されたものであるため、本報告書においても処理状況調査の数字で統一した。
別途、税収の推移について記載している。

(2) 北海道循環資源利用促進税事業の検討に関する報告書（素案）について

○資料2～4に基づき、事務局より説明

○感想

- ・資料2の5のリサイクルの推進に向けた課題について、課題内容が詳細に記載されており、今後においても税事業の必要性を認識しているという内容となっている。
また、6の今後の方向で、低炭素社会、自然共生社会の視点からのリサイクルの推進を入れたことにより今後どう展開していくのか期待。(石井座長)

○指摘

- ・資料4（P21）の産廃の継続的かつ的確な実態把握の本文に「産廃の適正処理にも資する調査方法を検討していく必要がある」とあるが、適正処理だけではなく排出抑制や再生利用の促進の文言を加えた内容とすべき。(石井座長)
→ご指摘のとおり対応する。

(3) 今後のスケジュール等について

○資料5、6に基づき、事務局より説明

○質問

- ・ 懇話会委員には、いつ頃報告書案の内容が通知されるのか。(石井座長)
→報告書案については第4回道議会定例会の前、また、正式な報告書としては公表前に道議会への報告内容と併せて懇話会委員の皆様にお知らせする予定。
- ・ 資料6の H29年度における取組拡充の検討状況について説明があったが、それ以降に新しくメニューが増える場合、当懇話会はないことから庁内 WG や関係団体連絡会議で協議し決定することになるのか。(石井座長)
→お見込みのとおりであり WG や連絡会議から提案を頂き、案を提示し進めることになる。
- ・ 環境審議会で行う事業評価と環境基本計画に基づいて行う税事業の評価はどのような関係にあるのか。(石井座長)
→税事業は、本懇話会による5年毎の見直し評価の他に毎年、環境基本計画に基づいた点検評価が行われる。
- ・ 新規事業の選定の方法に透明性が確保されるよう、適切な対応をお願いしたい。(石井座長)

(4) その他

○要望

- ・ 海域の流木問題について、以前から台風による流木を漁業者が処理している実態があり、近年の気象災害によるそれらの負担が年々増加していることから税事業の趣旨とは違うが今後において対応願いたい。(井下委員)
- ・ 税事業による農業用廃プラスチックのリサイクルに係る研究については、短期的なものと長期的に取り組むべきものがあると考えするため、研究テーマの設定や研究成果の周知などについての話し合いの場を設けていただきたい。(浅野委員)

○懇話会終了に伴い座長挨拶

- ・ 委員の皆さんからの提案を報告書に盛り込むことができ大変有意義であった。
- ・ 北海道の再生利用率はまだ低く、最終処分量も目標の半ばであるため取り組むべきことが多くあることから、税事業は今後も必要であり、効果的な利用が望まれる。
- ・ 税事業は、今後、低炭素社会、自然共生社会に向かった使い方を考えていく必要がある。
- ・ 最後に昨年12月から今日まで無事に懇話会の意見をまとめることができご協力に感謝申し上げます。